

市場ニーズに対応した輪ギク産地を目指して

■ 豊南地区花卉部会 ■

(西讃農業改良普及センター 村口 浩)

●対象の概要

香川県農協豊南地区花卉部会（部会員17名、施設面積約2.7ha）では、輪ギクを中心に、ユリ、ストック、ラナンキュラス等が栽培されている。特に輪ギクは、共選共販体制による省力化・有利販売にJA香川県合併前から取り組み、生産者の荷造り作業分業化、品質のバラツキ対策として、共同選花施設を整備し集出荷支援体制を確立した。平成10年度からは、加工業者や量販店などのニーズに対応するため、盆、年末等物日出荷を対象とした予約相対取引の商材「PHM（プロミスハウスマム）」を設け、生産農家の経営安定化のアイテムとして現在も定着している。

●課題を取り上げた理由

近年、異常気象が要因となる開花遅延などが発生し、出荷が不安定になるとともに、海外からの輸入増加に伴い販売単価も低迷している。また、暖房費、資材費等も高騰しており、輪ギク生産を圧迫している。

そこで普及センターでは、豊南地区花卉部会と協力して、通い箱の検討や短茎ギク（草丈70cm）の箱詰め本数を増やすなど物流の効率化による出荷コストの削減に向けた検討を進めた。また、市場が求める品質の輪ギクを求める時に供給できるよう、市場ニーズを的確に把握し、盆、年末等の物日出荷には予約相対に対応できるよう、キク出荷管理システムの導入検討を行うこととした。

●普及活動の経過

1 出荷コスト削減に向けた通い箱の導入検討

豊南地区花卉部会では、輪ギクのニーズが最も高い物日（盆、年末、彼岸など）に向けて、施設丸ごと市場と販売契約を結ぶPHM（プロミスハウスマム）に取り組んでおり、その販売先は固定していることから、物流コストの削減のために、リサイクル可能な通い箱の検討を行った。

輪ギク出荷に適応可能なプラスチック製容器3種類を供試し、箱内の温湿度変化、出荷後の切り花品質等について調査を行い、リサイクル可能な通い箱への適応性について、関西大手市場、加工販売業者とともに検討を行った。



通い箱の試験状況

2 短茎・脱葉に対する取り組み

現在、全国的な輪ギクの出荷規格は80～90cmが主流であるが、関西仏花での輪ギクは30cm程度、量販店で販売されている組花でも60～65cmと、通常の規格で出荷され切り落とされた茎や葉はゴミとして廃棄されており、短茎ギクへのニーズが高まっている。そこで、PHMの主要取引先である関西市場のニーズに対応するために、短茎・脱葉処理による出荷方法について、検討を行った。また、短径ギクの生産に向けて栽植密度を変えての実証ほを設置した。

3 キク出荷管理システムの導入検討

有利販売に向けて今後の出荷数量を的確に把握することが重要であることから、(株)インテックと国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構が開発中の出荷管理システムの導入の検討をすすめた。出荷管理システムの正確性を確認するとともに関係機関と連携を取りながら現地巡回時に消灯日や最終出荷本数の確認を行った。

●普及活動の成果

- 1 通い箱は段ボール箱と品質の差はないが、今後の回収システムに課題を残す

出荷コストの削減に向けて、段ボール箱に代わるリサイクル可能なプラスチック製容器3種類で、その適応性を調査した結果、箱内の温湿度は、通常の段ボール箱に比べ、ほとんど差がないことがわかった。また、(株)なにわ花いちばの協力により市場到着後の日持ちについても調査し、ほとんど差はみられなかったことから、輪ギクの出荷に利用可能であることがわかった。これらを元に、通い箱の導入の可能性について、関西市場とともに協議した結果、加工業者での取り回しに工夫が必要であること、空箱の回収方法等、現時点では課題が残った。

- 2 短茎、脱葉により箱詰め本数が増加、短茎栽培では、適正な栽植密度を見つけた

M級であれば、70cmの切花を通常脱葉20cm程度で小箱なら150本詰めて出荷するが、切り口から40cm程度脱葉することによって、その箱詰め本数を調査した結果、220本、約1.5倍詰めることが可能であるとわかった。

また、脱葉によってその後の開花にも影響することが考えられることから、切り口から60cm、40cm、20cm脱葉し、その後の開花について調査した結果、脱葉量が多いほど満開時の花の大きさは小さくなることがわかり、短茎出荷においても脱葉量は短くする方が良いと思われる。

さらに、年末出荷作型において、短茎ギク収穫に向けた栽培実証を行い、等級割合と収穫本数のバランスの取れた適正な栽植密度は240本/坪であった(表-1)。

表-1 短茎規格における1坪当りの規格ごとの収穫割合およびそれに基づく販売金額の試算

区分	短茎区①	短茎区②	短茎区③
定植本数/坪	160本	200本	240本
2L	49% (78本)	27% (55本)	20% (48本)
L	33% (52本)	30% (59本)	26% (62本)
M	9% (14本)	31% (61本)	30% (73本)
M以上合計	91% (144本)	88% (175本)	76% (183本)
S	10% (16本)	7% (14本)	20% (48本)
格外	0% (0本)	6% (11本)	1% (2本)
未収穫	0% (0本)	0% (0本)	3% (7本)
販売金額	10,160円	12,420円	14,355円

注：()内は収穫本数。M以上を65円、Sを50円、格外を30円と仮定して試算

- 3 キク出荷管理システムを活用し消灯日を決定

豊南地区花卉部会では、物日に向けて販売契約を結ぶPHMに取組んでおり、契約ほ場を巡回し、消灯日直前巡回では今後の天候を鑑みながら消灯日を決定していた。本年度、消灯日直前巡回では、出荷管理システムで作出された予測データと前年の出荷データを照らし合わせながら消灯日を決定した。(図-2)



システムによる開花予測と実際の生育を比較

しかし、今年の盆出荷のように消灯後の高温によって出荷が大幅にずれることがあることから気温等を見ながら人手で修正可能なようシステムにすることが必要と思われた。

●今後の普及活動の課題

「市場ニーズ対応型キク生産方式検討会」を開催し市場関係者らと意見交換を行った結果、物日に的確に求められる数量を出荷することが最も重要であることがわかった。

普及センターでは、豊南地区花卉部会とともに市場ニーズに対応した品質の輪ギクを市場が求める時に供給できるよう、キク出荷管理システムを活用しながら過去のデータから分析して消灯日を決定していくとともに、栽培方法(短径栽培)の改善により10a当り出荷本数を増加し、PHMの出荷割合が増加するよう、検討していきたいと考えている。また、引き続き出荷コストの削減に向け関係機関と連携を図る。

表-2 PHM(予約相対)出荷割合の推移

年度	27年度	28年度	29年度
出荷割合	55%	57%	61%